横越小

話しながら歩くのが楽しい
好評の歩き下校2年目に入る

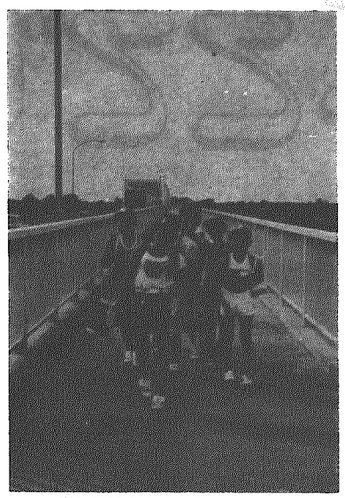
横越小学校では、スクールバス通学児童の「足腰を鍛える」目的の、今年三回目の歩き下校が七月十四日行われました。

この歩き登下校は、昨年九月、マラソン大会前に初めて行ったもので、三年生以上を対象に登校一回、下校二回行われました。

今年は月一回の歩き登下校が計画され、二学期から二年生も入れ場合によっては、一年生も一回ぐらい入れて全校的に広げたい、と学校当局は話しています。

この日は、午後三時半から児童たちは地域ごとにまとまって予定の下校コースを歩きはじめました。一番遠い二本木は六キロメートル以上、児童の足で七十分ほどというかなりきつい面も感じられますが、当の児童たちに聞いてみると、「少し疲れるけどおもしろい」「みんなと話しながら歩くのが楽しかった」と元気に答えてくれました。

また、歩き登下校担当の宮田先生は、「児童の足腰を丈夫にするのはもちろんですが地区の高学年と低学年の縦のつながりが生まれ、いっしょに歩くことによって周りの風景や自然にふれ、楽しい語らいができるので子どもたちは嬉しいのでは」と話しています。



疲れるけどおもしろい
横雲橋を歩く蜆山の児童

環境美化に大きな役割
古紙・空ビン回収1年
青少年育成会議木津支部

青少年育成村民会議木津支部は、昨年五月から古紙や空ビンのリサイクル運動をはじめ着実に活動の成果を挙げています。

リサイクル活動は、支部の環境部が月一回、回収するもので実施当初は、各家庭の協力も十分でなかったものの、地道な一年の活動が実を結び今ではどこの家庭も協力するようになり、環境美化にも役立つと地域から高く評価されています。

毎月の売上代金は、八千円程度になり支部活動の大きな財源にもなって、親子登山や花火大会など活発な事業活動が行われています。

〈花火〉これだけは守ろう 10の注意

一、花火に書いてある注意書きをよく読んで、必らず守りましょう。

二、花火を人や家に向けたり燃えやすいもののある場所で遊ばないようにしましょう。

三、沢山の花火に、一度に火をつけないようにしましょう。

四、大人と一緒に遊びましょう。

五、風の強いときは、花火遊びはやめましょう。

六、水をバケツなどで、たっぷり用意しましょう。

七、花火をほぐして遊ぶことは危険です。絶対やってはいけません。

八、吹出し、打ち上げなどの筒もの花火は、途中で火が消えても筒をのぞいてはいけません。

九、花火をポケットに入れてはいけません。

十、正しい位置に点火しましょう。

住宅建設資金
公庫融資受付

住宅金融公庫では、個人住宅建設資金の申込み受付を次の要領で行っています。

1. 受付期間
昭和57年7月27日～8月31日

2. 選定方法
選考（無抽せん）

3. 申込資格条件等
(1) 資格＝自分が住む住宅を新築し、土地の準備があり、月収が一定基準以上の方。
(2) 融資対象住宅＝住宅部分の床面積が一二〇㎡以下の住宅（ただし60歳以上の老人、心身障害者、六人以上の家族が同居する場合、並びに二世帯住宅の場合は一六五㎡以下の住宅）
(3) 融資額＝木造住宅（80㎡以上）四八〇万円から五〇〇万円（なお断熱構造化、耐久性能向上、太陽熱温水器設置工事をする場合は一〇万円から五〇万円加算。また老人（65才以上）、心身障害者が同居する場合並びに二世帯住宅の場合は五〇万円から一八〇万円の割増融資）
(4) 利率＝年五・五％
(5) 返済期間＝木造で二十五年以内
(6) 返済方法＝元利均等毎月払い（ボーナス払い併用ステップ償還あり）

4. 申込場所（照会相談）
住宅金融公庫業務取扱店と表示した金融機関
※十月一日以降の申込から段階金利、規模別貸付制度が導入されますので、低利の融資は今回が最後です。

国民年金
標語募集

国民年金が県民のみなさんから理解され、親しまれるものにしていくため、次により標語を募集しています。

一、応募作品の内容
国民年金の果たす役割などを表現したもの、また、年金への加入、保険料納入意識を高めさせるもの。

二、応募資格
県内に居住する人に限ります。

三、応募方法
一人五点まで、用紙は普通郵便ハガキで、必ず、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記してください。

四、締切日
昭和57年8月31日（当日消印あるものは有効）

五、送り先 〒九五一
新潟市学校町通一番町
新潟県民生部国民年金課

巧妙、悪質な訪問販売横行
はっきり断る消費者に
ベテラン主婦もガリ勉

村の消費生活推進協力員と連合婦人会による消費生活研修会が、七月十四日公民館で開かれました。

当日は、三十名の主婦が出席。「暮しと冷凍食品」「マルチ商法」の映画を教材として勉強したほか、役場石井経済課長から最近における訪問販売の被害事例や電話による株の販売、投資勧誘などが説明され、「ますます巧妙、悪質化している手口に十分注意し買う気持がなかったら、憶せず、はっきり断る勇気がほしい。また、少しでも気があるように見られると執拗に食い下ってくるので、強い意志で当るとともに、協力員、役場、消費生活センターなどへ相談協力を求め、悪質な訪問販売にひっかからないよう」と話されました。

研修に出席された主婦は、いずれもベテラン揃いでしたが、訪問販売や電話による巧妙な優しい手口には、つい相手のペースにはまりがち――自から冷静な心がまえとはっきりした態度が必要なこと、などが話し合いされました。

映画と話し合いでもっと強い消費者に

水の週間 8/1～8/7
水も貴重な経済財 大切にする心を

水は、私たちの暮らしに欠かせぬ大事な〝生命の源〟であることは、今更言うに及びません。

もし、水道の水が止まったら家庭をはじめあらゆる所で私たちの生活は立往生することでしょう。ところで、水の大切さは、頭で理解しても、ふだんの生活ではまだまだ水を無駄に使っている面が少なくありません。

夏場は、一年のうち最も水を多く使う季節です。今一度暮らしの中の水の大切さを見直したいものです。

今、私たちの家庭でどのくらいの水を使っているか、と言うと、昭和五十年の全国平均一人一日当たり百七十五㍑昭和四十年から比べ十年で約二倍家庭用水は増えています。今後もかなりの伸びが予測され、国土庁の推計では、昭和六十年に二百三十六㍑、昭和六十五年に二百六十㍑と、昭和五十年の一・五倍になっています。

これは、全国ベースの量ですが、地域の条件で多少の差はあっても、生活の高度化、とくに都市化、トイレの水洗化、下水道の普及で顕著に伸びることは確かです。

水道は、清浄、豊富、低廉をモットーとして供給されなければなりませんが、増え続ける需要に対する供給体制には、多額な建設費と長年月を要し昔のように無限に手に入る時代から限られ、つくられるもの「自由財から経済財」へと変ってきています。

都市化社会における水の価値は、下水道によって更に快適な生活環境が保障される一方、一層貴重な資源となって参ります。

最近の新聞などにも「節水型社会」と言う言葉が出ているように、水は限りある資源だと言う深い認識をもち、一人一人が水を上手に使う習慣を身につけ、少しでも〝節約〟することだとしています。（佐藤）

電気も夏ばて
無駄を省き効率よく使おう

電気は、わたしたちの暮らしに一日たりとも欠かせない身近で、便利なエネルギーです。

家庭では、照明や、冷暖房をはじめ、洗濯、そうじ、食品の冷蔵（凍）など、電気はスイッチ一つでやってのけます。

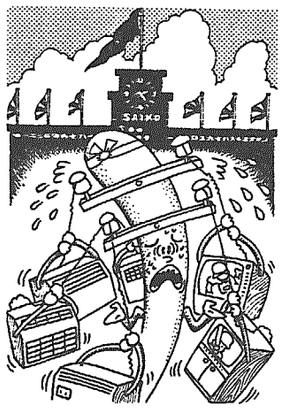
わたしたちが快適で便利な日常生活を送ることができるのも、電気というエネルギーに負うところが大きいと言えます。

年間を通じて見ますと、冷暖房機器の普及によって夏と冬に多くの電気を使います。なかでも夏場の八月、九月がピークで、その三分の一はクーラーの使用によるものとされています。

一方、一日のうちで最も多く電気を使う時間帯は、気温の上がる夏の午後二時前後でちょうどクーラーがフル回転する時刻に当たります。それに、高校野球のテレビ観戦が主なる八月中旬の午後二時は日本列島の電力消費量はピークに達します。

電気は、ピーク時に備えてふだん蓄えておくということはできません。また、足りないからといって、電気そのものを輸入するわけにもいきません。

無駄を省いた効率的な電気の使い方を心掛けましょう。



水の節約ヒント
活かして使う工夫を

生活用水の横綱は、洗濯と風呂です。夏場は、とくにこのほか洗車、散水などでも多量に水が使われます。

〝節約〟は、「必要なものまで減らす」のではなく限りあるものを「活用」することが大切。まず実践です。

洗濯、風呂、洗車などの水は、次のように使ってみてはいかがでしょう。

◎ 洗 濯
1. 2～3回分まとめ洗いをする。
2. 水は風呂の残り湯を使う。
3. ためすすぎをする。

◎ 風 呂
1. 小人数家族は、2回は使う。
2. 残り湯は洗濯、そうじ、洗車、散水などに使う。

◎ 洗 車
洗車はホース洗いをバケツ洗いにする。（ホース洗いの約7分の1ですむ）